

「市長への手紙」HP掲載データ（平成29年5月分）

見出し	2905-13 市内の婦人科、小児科の充実について
ご意見	<p>市内で帝王切開のお産もできるようにする。小児科も強化する。二戸まで行っていたら大変である。婦人科・小児科の病院を充実させること。</p>
回答	<p>[取組（回答）内容]</p> <p>県立久慈病院においては、産婦人科医及び小児科の常勤医師が不足している現状にあり、特にも産婦人科医師が、平成19年から一人体制となっていることから、ハイリスク分娩の場合は二戸病院での対応となっているほか、市内の産科医が平成28年3月でお産の取り扱いを終了したことから、久慈市内において帝王切開での出産ができない状況となっております。</p> <p>安心してお産・育児ができる環境を望まれるお気持ちは十分に理解しておりますが、全国的な医師不足も背景にあることから、他地域から呼び込むことは難しく、圏域を越えた連携や診療応援を強化することで必要な医療提供体制を維持していると伺っております。また、新たな医師の養成にも長期間を要することから、直ちに県立久慈病院の医師を増員し、診療体制を整えることは、極めて困難であると言わざるを得ません。</p> <p>ただし、この厳しい情勢の中、県からは昨年度、二戸病院の産婦人科医を1名増員し、久慈病院への支援を強化するとともに、久慈病院には助産師を5名増員するという迅速な体制補強をしていただきました。また、岩手県周産期医療情報ネットワークシステム“いーはとーぶ”の活用により緊急時に備えて医療機関同士がリアルタイムに情報のやり取りを行うことで、速やかに質の高い適切な医療を受けることができるよう体制を整えております。</p> <p>市といたしましては、岩手県に対し久慈病院の医師の増員、偏在の是正、周産期母子医療体制の充実強化等について、継続して要望活動を実施しておりますし、県や国保連と連携して、奨学金による地元医師養成事業を継続しております。</p> <p>今後におきましても、関係機関との連携を強化し、地域の周産期医</p>

	療体制の充実が図られるよう努めて参ります。
担当課	保健推進課                      電話：0194-61-3315